

横浜市立桜台小学校学校 令和2年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
自分の思いや願いを実現させていこうとする子	思いや考えを表現する力 人々の様々な関わりについての理解 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢

(2) 中期取組目標

中期取組目標
「児童、教職員、地域住民など、そこに関わるすべての人が、共に学び合い高め合う学校づくり」 知)先生から先学へ:教職員が率先して「自ら進んで学ぶ姿勢と手法」を示し、児童や地域に及ぼすこと。 徳)行動する道徳へ:自分ごと化できる具体的に学び、態度と行動に変容をもたらすこと。 体)意思ある心身へ:目的意識を持って健康づくりに取り組むこと。 公)自分でつくる自分のまち:地域社会への参画意識を醸成し、それに基づく公共心を育てること。 開)共に生きる決意:性別や国籍、障がいの有無などを超えるコミュニケーション力を育てること。

(3) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・具体的取組

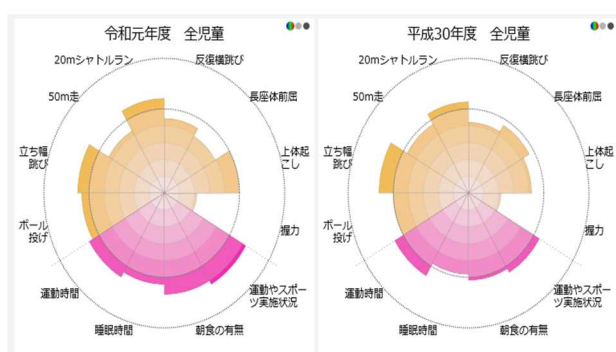
重点取組分野	具体的取組
健やかな体	体育と食育、またその両者をつなぎ、支える知識としての保健を有機的に連携させ、「知る・食べる・運動する」の好循環を生み出していく。学校保健委員会の活動を通じて、健康への関心や知識を家庭とも共有し、生活全体を通じた健康づくりを推進していく。
担当	体育部

2 体育・健康に関する実態把握

1) 体育・健康に関する実態

- ・市の平均に比べ、朝食の摂取率がやや高く、毎日食べていない子どもはいない。
- ・地域に外遊びができる空間は限られている。
- ・保健室の利用状況（傷病の状況）は、友達関係の影響からけがにつながり利用する児童が増えている。
- ・1校1実践運動の取組の様子をみると、任意参加の活動では、実際に参加している児童は楽しんでいる子どもがほとんどであるが、参加しない児童も多く学校全体に広がっていない。また、運動の日常化という点で、まだ足りないところが多い。

(2) 体力の概要と要因の分析（小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用）



新体力テストの結果から、反復横跳び、長座体前屈は毎年のように全国平均や市平均を下回ることが多い。投能力については、運動経験の少なさが影響しているものと思われる。握力の低さは際立っていて、鉄棒・雲梯などの遊び経験の少なさもあるように思われる。

総合的に見ると、学年による浮き沈みはあるものの、各項目の全国・市平均を上回る結果が出ており体力は上昇傾向にある。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科・保健体育科での取組》

- ・体育科・保健体育科では、重点研究を通して、自分から運動に主体的に取り組めるよう、運動の楽しさが伝わるようにしていく。
- ・自己の運動能力や体力に関心をもてるような授業を実践する。

《他教科での取組》

- ・家庭科では、食教育との関連を図り、自分の正しい食生活のあり方を考えられるようにする。

特別活動・総合的な学習の時間

- ・運動会では、体育科・保健体育科で培った資質能力をさらに発展させ、力を最大限発揮できるような取り組みをめざす。
- ・運動委員会の活動を、より体力向上につながるように計画する。
- ・球技交流会、体育大会などの体育的行事では、めあてを明確にし、目標をもって運動に取り組めるようにする。

課外活動

- ・学校保健委員会と連携して、健康への意識を高める。
- ・夏季水泳教室に参加を積極的に呼びかけ、参加者を増やす取り組みをする。
- ・学校だより等を通して、体力テストの結果や保健情報等を家庭と共有する。

平成 31年度 桜台小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 体力アップの取り組み

《ねらい》 運動の機会の確保

《内容》 体育的行事を運動委員会（児童）が企画・運営し、内容と取組の充実を図り、運動の楽しさを味わわせ、体力の向上を図る。また、年間で体力向上にかかわる取り組みを位置付ける。
（行事例）長縄集会、秋のスポーツ月間、中休みマラソン実践

- 指 標： ①行事後の振り返り 「事前取組」「満足度」
②生活実態調査「運動やスポーツの実施状況」「1日の運動スポーツの実施時間」から検証する。

<参考> 学習指導要領総則 「学校における体育・健康に関する指導は、児童（生徒）の発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。」